

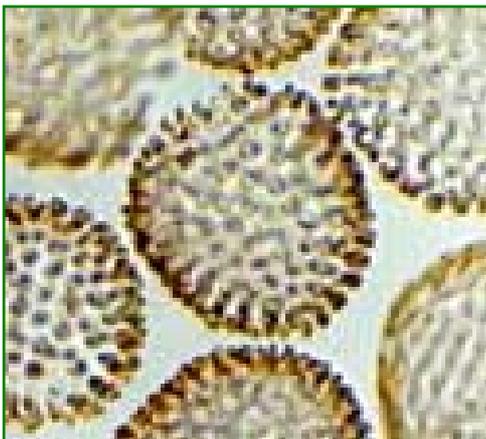
# 瀬田川プランクトン調査結果速報

～ 第36報 ～

滋賀県立衛生環境センター  
琵琶湖水質担当  
平成14年12月2日

## 1. 最も数が多かった種類（優占種）

植物プランクトン第1優占種



*Uroglena americana*  
(ウログレナ)  
黄色鞭毛藻類

楕円形の細胞が球状の寒天質の表層に規則正しく配列し、球状の群体を形成する。各細胞は不等長の2本の鞭毛を有する。

動物プランクトン第1優占種



*Acanthocystis chaetophora*  
(アカントキスチス)  
太陽虫類

体は球形で多くの偽足を放射状に出している。小型の太陽虫で軸足が非常に長いのが特徴である。

コメント

植物プランクトンは、引き続き「淡水赤潮」を形成するウログレナが最も多かった。本種は毎年この時期にも観察されるが、「淡水赤潮」を形成する程に増加したことはない。また、珪藻のキクロテラ グロメラータが増加してきたが、電子顕微鏡で詳細に観察すると、本種の中には数種の中心目珪藻が含まれていることが報告されている。動物プランクトンは、太陽虫のアカントキスチスが引き続き多かった。

## 2. 見つかった主なプランクトンとその数（個体数）

### (1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体 / l)
肉質虫類	<i>Acanthocystis chaetophora</i>	400

第 2 優 占 種		個体数 (個体 / l)
輪虫類	<i>Polyarthra vulgaris</i>	240

\* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

# 瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター

琵琶湖水質担当

平成14年12月2日

第36報

## (2) 植物プランクトン

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(黄鞭) <i>Uroglena americana</i>	4800		
(黄鞭) <i>Pseudokephyrion gallicum</i>	10		
(黄鞭) <i>Pseudokephyrion tatricum</i>	10		
(黄鞭) <i>Mallomonas fastigata</i>	1		
(珪) <i>Melosira granulata</i> var. <i>angustissima</i>	30		
(珪) <i>Cyclotella glomerata</i>	800		
(珪) <i>Skeletonema potamos</i>	30		
(珪) <i>Synedra acus</i>	1		
(珪) <i>Cymbella ventricosa</i>	10		
(珪) <i>Nitzschia acicularis</i>	20		
(珪) <i>Nitzschia</i> sp.	10		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	80		
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	120		
(緑) <i>Mougeotia</i> sp.	2		
(緑) <i>Closterium aciculare</i> var. <i>subpronum</i>	2		
(緑) <i>Staurastrum dorsidentiferum</i> var. <i>ornatum</i>	4		
(他) その他の植物プランクトン	10		
(藍) 藍藻綱	0	0.0	0.0
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	4821	81.3	67.0
(珪) 珪藻綱	901	15.2	13.8
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	200	3.4	8.4
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	8	0.1	10.8
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総 細 胞 数	5930	総体積	1.86E+06
種 類 数	17	( $\mu\text{m}^3$ )	

注1) 細胞数の単位は(細胞 / ml)

ただし\*印の種は群体数(群体 / ml)

注2) 優占種は が第1優占種、 が第2優占種  
数字は各綱ごとの占有率(単位: %)

注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から  
試験的に推定した概算値である。